

令和4年度全国農業大学校等意見発表要旨

農業大学校名 奈良県立なら食と農の魅力創造国際大学校 学科名 アグリマネジメント学科 学年 1年 氏名 つじもと やすと
辻本 泰斗

1 課題

「花」と「野菜」の二刀流経営を目指して

2 意見・提言

(1) 入学動機

私の両親は奈良県天理市で花壇苗及び野菜苗を年間約130万ポット生産している。両親を手伝い、日々過ごすなかで、私自身食べることが好きなことから漠然と花より野菜に興味を持った。また「花壇苗業界は先細り」と両親がよく口にしていたので、花壇苗以外で何かないか探するために本校の農業基礎研修に参加した。そこで野菜作りの面白さを肌で感じたことから、本格的に野菜作りをしたいと思い、なら食と農の魅力創造国際大学校に入学した。

(2) なら食と農の魅力創造国際大学校で学んだこと

専門実習ではたくさんの野菜、果樹、そして花に触れた。講義では、鍬の使い方や、畝たて、肥料の計算、農業経営等があり、幅広いジャンルを勉強できた。この学んだことを実家の経営に当てはめて、考え直してみたところ、新規の導入品目には、トマトとリーフレタスを選んだ。

(3) トマトとリーフレタスを選んだ理由

トマトを選んだ理由の1つ目は花壇苗で使用しているビニルハウスを活用できる品目であること。2つ目は本校がトマトでJGAP認証を取得していること。3つ目は調理する際に薬物と違い手間が少なく、色鮮やかで食卓の彩りになる暖色野菜で、年中購入する人が多いこと。

リーフレタスを選んだ理由の1つ目は卒業後、直売所での販売をできる品目であること。販売する直売所については、運送費等を考え、すでに候補として3店舗を選定している。その店舗では、生産者が少なく、正午頃にはほぼ完売している。2つ目は花壇苗に比べて種代や肥料代が安く、経費が約3分の1で済むこと。栽培期間も短く、圃場で計画的に繰り返し生産できる点も良いと考えた。

(4) 4Hクラブの活動を通して見えた就農ビジョン

去年から、地元の天理市4Hクラブに入会し、イベントで両親が栽培したパンジーやビオラなどを販売したところ、私が想像した以上に、たくさん売れた。「きれい」「もっとほしい」と声をかけてもらったことで、花壇苗を必要とする人がいることに気づかされ、今後は花壇苗と、野菜苗経営も引き続き行って「花壇苗」と「野菜」の二刀流経営を目指す。

(5) 二刀流経営を目指して

2年生では、トマト農家への研修と併せて、本校でのプロジェクト実習を希望している。農家研修では、先進農家の方にトマトづくりの極意を教わり、就農するまでの不安をなくしていきたい。学校では、ミニトマトを栽培し、実家の圃場に適する品種を検証し、就農時に役立てたい。就農1、2年目には、大玉トマト、ミニトマト、リーフレタスをハウス栽培し、回転させる計画をたてた。花壇苗は両親のもとで技術を学び、両親が作ってくれた取引先との関係を大切に、存続していきたい。3年目以降は、花壇苗と野菜の生産面積の配分を見直してゆく。卒業後は、就農する同級生とは、お互いが切磋琢磨し、奈良県の農業界を引っ張っていけるような存在になりたい。